

学生 教職員 医療従事者対象

## 九州大学病院きらめきプロジェクト 第10回講演会

# 医師の働き方

# いろいろ

11/7  
木曜日

時間 ▶ 17:30~19:20  
会場 ▶ 九州大学病院キャンパス  
コラボレーションI 2階 視聴覚ホール  
参加費 ▶ 無料(託児あり:10/28までに要予約)

「働きやすい病院」と言われるために努力していること



講師: 富永 雅也先生  
(社会医療法人財団白十字会 理事長)

多職種協働によるチーム医療と働き方改革  
~病院総合医によるマネジドケア~



講師: 園田 幸生先生  
(社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院 包括診療部 部長)

きらめきプロジェクトの12年間



講師: 檜木 晶子  
(九州大学病院きらめきプロジェクト 副センター長)

座長: 加藤 聖子先生 (九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学 教授)

お問合せ  
託児の申込みは

九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター

TEL/FAX: 092-642-5203

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

共催: 福岡県医師会・総合メディカル株式会社



HP メールお問合せ

## レディースコンパが行われました

6月11日(火)に本学医学部に在籍中の女子学生による女子学生のための会“レディースコンパ”が行われました。



年に一度開催されるレディースコンパは、普段講義や実習で忙しい医学部の学生さんにとって、他の学年の先輩や後輩、先生方とお話できる数少ないチャンスです。当日は、思い思いのスタイルでおしゃれをし、勉強だけでなく部活や趣味のお話などをして交流します。

今年もきらめきプロジェクトの檜木副センター長が参加し、卒後起こりうる結婚・出産・育児・介護などの離職につながるライフイベント発生時にどのように対処していけばよいか、ご自身の経験談を踏まえたアドバイスをされました。参加された学生さんにとって、とても有意義な時間になったのではないかと思います。



九州大学病院

きらめきプロジェクトキャリア支援センター

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX: 092-642-5203

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: https://www.kyudai-kirameki.com/



HP

## 性差医学に関する講義を行いました

5月21日と6月4日に、講師にきらめきプロジェクトOGであり、国立病院機構九州がんセンター乳腺科部長である徳永えり子先生と医療法人たかやま内科医院 院長である雨宮直子先生をお招きし、性差医学に関する講義を行いました。乳がん治療などの乳腺外科の立場から、また女性外来や心療内科の立場から性差医療についてお話をいただきました。学生にとって性差医療の大切さを学ぶ良い機会になったようです。

### 【学生の感想(抜粋)】

- \* 男性にも乳がんがあることに驚きました。
- \* がんの発生について男性特有のがん（前立腺がんなど）があり、女性特有のがん（乳がんや子宮頸がんなど）があることは知っていたが、予後に性差があることは知らなかった。
- \* 思わぬところにも性差は現れてくるのだと思った。医者になった時、コミュニケーションを取る上で性差を考えるのは大切だと思うので、考える機会を得られてよかった。
- \* 今まで医学部での専攻の勉強は、病気の名前を覚えたり人体の仕組みを知ったりということだけかと思っていただけ、この講義を受けて、性差や患者さんの状況に寄りそう治療が医師として大事だと思いました。
- \* 性差医療について考えるには、男女の社会的立場や環境を十分に考慮する必要があると感じました。性差医療についてより深く学んでいきたいと思いました。



## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します

### ❀自己紹介❀

卒後11年目の内科医師です。同じ内科医の夫と口の達者な長男(2歳)の3人家族です。

### ❀きらめきプロジェクト所属までの経緯❀

初期臨床研修と、1年半の専門科で勤務の後、フランス北部のリール大学へ2年間留学させていただきました。フランスは医学部の女性の割合が7割、出産・育児による離職はほとんどなく、同じ内容の仕事に戻る人が大多数でした。国際学会発表、論文執筆にも積極的で、逞しいフランスの女性医師を間近で見られたことは、とても良い経験となりました。ニースの学会で、赤ちゃんを抱っこ紐に入れたお母さん医師が堂々と最前列に座ったときはおどろきました。

帰国後は総合病院で勤務し、脳卒中専門医を取得しました。少しずつ自信がついてきて、仕事が一番楽しい時期でした。卒後8年目に長男を出産し、約1年半の育児休業を経て復帰しました。妊娠中は体調を崩し、突然の休業で迷惑をかけるしまいました。第二子の希望があり、フルタイム勤務と育児・妊娠生活の両立に不安があったので、きらめきプロジェクトへの応募を勧めていただきました。

### ❀きらめきプロジェクトに所属してから❀

昨年4月から、週2日大学病院と、週1日北九州市内の総合病院で勤務しています。大学勤務のお蔭で学位取得の準備も順調に進み、今年6月には最終関門ともいえる予備審査を終えることができました。

第二子を妊娠中ですが、フルタイム勤務では負担が大きく、難しかったらと思います。立派になっていく同期や後輩に焦りを感じ、忙しそうな同僚を脇目に退勤することに後ろめたさを感じることもしょっちゅうですが、周囲の先生方や家族のサポートに感謝しつつ、細々と仕事を続ける日々です。長男が最近、『お仕事頑張れ!』と応援してくれるようになりました。医療に貢献しつつ、後輩育成、研究もして医学にも貢献したいという目標は、まだまだ達成できていませんが、わが子の応援に励まされるよう、次回の育児休業中には、他の専門医試験にも挑戦し、少しずつでも向上していきたいと思っています。

